

平成30年度 第1回学校評議員会 会議録

- 1 日時 平成30年6月19日(火) 15:00～16:30
- 2 場所 水沢高等学校 大会議室
- 3 出席者

○学校評議員

高 梨 拓 高 橋 栄 蔵 後 藤 真 子
岩 村 正 明 (千 葉 伸一郎評議員は欠席)

○教職員

校 長 立 花 起 一 副校長 吉 川 彰 彦
事務長 佐 藤 理 教務主任 千 葉 賢
生徒指導主事 林 苗 子 進路指導主事 安 藤 智彩保
保健厚生主任 谷 木 悌 典

4 次第

- (1) 開会 (2) 出席者自己紹介 (3) 校長挨拶並びに学校経営計画説明
- (4) 学校概況説明 (5) 協議 (6) 閉会

5 【評議員からの質問や意見】

・いじめはどこの学校にもあると思うが、具体的に学校で今困っている状況はないですか。
→いじめへの対応は県全体で力を入れて取り組んでいる。いじめの定義は、被害生徒がいじめと感じればいじめである。アンケートに生徒が何らかのことを書いた場合、個人面談等をしながら、丁寧に対応している。未然防止に努めることおよび定例会で情報共有しながら学校全体で取り組むことを確認しており、今のところ学校として困っているということは起きていない。生徒の小さな変化に気づき、初期に対応することが大切と考えている。

・昔もそうだったが、1年生の応援歌練習では精神的に大きな負荷がかかると思うがそのあたりについて今の生徒はどうですか。

→厳しい応援歌練習だが、今年の1年生も途中でリタイアせず全員乗り越えた。応援歌練習後の入団式が終わってやっと水高生になれた気がするという感想を述べている。いい機会になっていると思う。

・NHKのどじまんコンクールに音楽部が出場したことに対する内外の評価はどうですか。

→高い評価をいただいている。埼玉から生の演奏を聴きたいということでいらっしゃった方もいる。他県の方からお手紙もたくさんいただいている。あんなに素敵な高校生がいるのかという評価をいただいた。

・高校生活は成績を上げるためだけではないし、大学に入るためだけの生活でもない。SSHの活動では仲間と共に課題を見つけて議論するというような素敵な体験ができていると感じた。乳幼児の様子を見ていると、子供同士の争いとか、意見のぶつかり合いを避けるような部分があり、高校生のメンタルの部分も気になる。乳幼児期の育ちが高校生の生活にも大きな影響を与えていると思う。SSHの発表も素晴らしいと思うので是非見てみたい。

・高校生は悩みがあるときに誰に相談するのでしょうか。

→担任や顧問あるいは家の人に相談する生徒もいる。相談できる人がいるので、いい方向に向かう場合が多いようである。

・SSHの予算はいくらか。また進学校の中にはSSHをやめている学校もあると聞くと、そのへんはどうか。

→年間約900万。今年全国で204校が指定されている。学校の判断で次の申請をしないこともあるし、申請を続けても認可されないこともある。

・難関大合格が増えたと聞いて素敵だと思ったし、部活動も素敵なレベルの選手がいるんだなと感心した。平成30年度の経営方針に地域における本校の使命という文言があるが、学校としてどのように捉えているか。また入学時の期待度がかなり高いと思うが、卒業時の満足度は結果を受けてどうなのか。それを調べているか。

→3年生の12月にはアンケートをとっているが、大学入試の結果がでるのが卒業後であり、合否が決まった後でまとめて満足度を卒業生に確認するのはタイミングが難しい。卒業式はいい表情でいる生徒が多いので、満足して卒業したと考えたい。春休みの春季ゼミの最後に先輩と語る会があり、大学1年生が来て後輩に経験談を話す機会は設けている。

・地域行事に先生方がなかなか出てくれないのが残念。

・防災対応面で、避難訓練はやっているか。高校は災害時の拠点になっているのか。

→避難訓練は年2回実施。大きな災害時には、学校は広い敷地もあり校庭や体育館が避難場所に奥州市から指定を受けている。

・不審者対応や建物の安全についてはどうか。

→校舎は古いが耐震補強工事がなされている。

・人生100年時代。親が遠くに行かせたくないというようなことを聞くこともあるが、一流のところでやりたいことをやらせるのが大事と思う。世界に飛び出して能力を発揮できるような人材を育ててほしい。変に戻ってこいとか言わず、戻るとしてもすぐじゃなくて良い。広く世の中を見られる人材をぜひ育ててほしい。